

JSOG Newsletter

Reason for your choice

No.4
JULY
2009

わたしたちの医療は“新しい生命”を生み出すためのものです。ひとつでも多くの生命の誕生のために。すべての女性のために。いま、わたしたちができることを...

社団法人 日本産科婦人科学会
JAPAN SOCIETY OF OBSTETRICS AND GYNECOLOGY

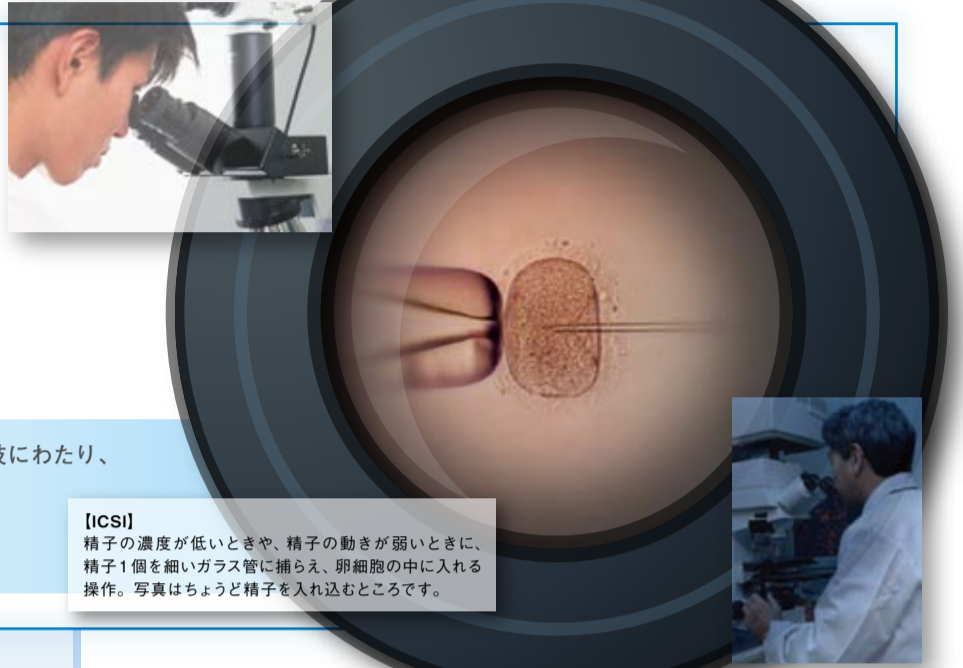
産婦人科の専門領域とその魅力 01

“ヒト・いのち・誕生”に最も近い医療

生殖補助医療の実際

ART : assisted reproductive technology

ひとくちに産科婦人科といっても領域は幅広く、「婦人科腫瘍学」「周産期医学」「生殖医学」と多岐にわたり、さらにその中でも多くの専門分野に分かれています。このコーナーは「産婦人科の専門領域とその魅力」と題し、各専門分野の紹介をしていきます。第1回の今回は、生殖医学の分野から「生殖補助医療 (ART)」をとりあげます。



[ICSI]
精子の濃度が低いときや、精子の動きが弱いときに、精子1個を細いガラス管に捕らえ、卵細胞の中に入れる操作。写真はちょうど精子を入れ込むところです。



[8細胞期胚]
精子と卵子をあわせてから約72時間(3日)後に受精した卵子は、8細胞にまで卵割します。

この治療は、何回でも受けることができますが、妊娠する方のほとんどが、5回までに妊娠していると思われる場合があります。

成功率は15%~28%
多くは5回までに妊娠

生殖補助医療(以下ART)の成功率はどのくらいですか?
一般的に、何回ぐらいまで行つものなんですか?
ARTには大きく分けて「体外受精」「顕微授精」「凍結融解胚移植」があります。ARTの成功とは、生児を得ること、と定義するのが妥当ですが、転院などで分娩まで経過を追えない症例もあります。

産婦人科の中で生殖に関わる内分泌機能を研究するのが生殖内分泌学です。医療の面では、不妊治療のほか、月経異常や更年期障害、メタボリックシンドローム、骨粗しょう症など広く女性医学全般を担当し、中でも、不妊治療に革命を起こした技術「生殖補助医療」も、生殖内分泌学の領域に入ります。

今回は、生殖補助医療の「実際」というテーマで、現場で活躍する婦人科医師に「やりがい」や「患者さんに接する上で気をつけていること」などを聞いてみました。

例もあります。妊娠(世界的には胎嚢を認めた妊娠)した率を成功と考える場合が多く、分母には治療したすべての症例、または胚移植した症例を用います。2006年の成功率を治療周期総数から見ると、体外受精で19%、顕微授精で15%、凍結融解胚移植で28%という数字が出ています。

凍結融解胚移植は、すでに受精した凍結胚がある患者さんへの治療なので患者さんの選択がすでにされており、体外受精や顕微授精よりも高い妊娠率が得られます。また、融解後着床できると思われる良好胚を選択して凍結してあることも、原因のひとつと考えられます。さらに、凍結融解胚移植周期は、自然周期、または自然に近いホルモン補充周期を用いるので、体外受精や顕微授精の治療周期に比べて、着床しやすいといわれています。

これらの治療で妊娠率に最も影響を与える因子は女性の年齢であり、30歳代中ごろから妊娠する能力が顕著に低下します。

他の婦人科疾患の患者さんと比べて「配慮が必要な点」や「苦慮している点」は、どんなところですか?
妊婦さんと一緒に外来だと、不妊治療を受けている患者さんはストレスを受けやすいので、外来時には、なるべく別の場所や時間帯にする必要があります。

不妊の原因は女性だけでなく男性の場合もあるので、夫婦両者が一緒に治療に向き合えるように、配慮しなければいけません。

さらに排卵前後に行う様々な処置や、体外受精の場合の採卵とその前後の処置など、治療が休日に重なることも生じるため、スケジュールも工夫する必要があります。

いろいろと治療の説明に時間がかかるので、不妊治療に精通している不妊コーディネーターと一緒に、これから行われる治療をよく理解してもらった上で受けられるように配慮するのが大切です。

実費診療で20万円~60万円
一般的に、費用はどのくらいかかるんですか?
ARTは自費診療です。費用は各施設まちまちですが一般的に、体外受精が約20~50万円ぐらい、顕微授精が約25~60万円ぐらい、凍結融解胚移植が約10~20万円ぐらいだと思われ

患者さんの喜びが、深く伝わってくる

他の専門領域と比較して、不妊生殖医療にかかわる産婦人科医師のやりがいや魅力は、どのあたりに感じますか?
やっぱり妊娠が成立したときの患者さんの喜びに接することができた時ですね。不妊治療を受けている患者さんは治療後、月経が来るまでの間、非常に大きな期待を抱く傾向があります。月経がくるたびの落胆も大きいんです。

この落胆を何度も繰り返している方が多く、妊娠したときの喜びは、治療を行ったわたしたち医師にも深く伝わってきます。

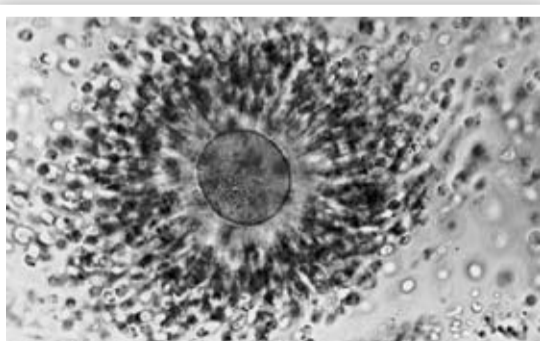
他の専門領域と比較して、不妊生殖医療にかかわる産婦人科医師のやりがいや魅力は、どのあたりに感じますか?
やっぱり妊娠が成立したときの患者さんの喜びに接することができた時ですね。不妊治療を受けている患者さんは治療後、月経が来るまでの間、非常に大きな期待を抱く傾向があります。月経がくるたびの落胆も大きいんです。

この落胆を何度も繰り返している方が多く、妊娠したときの喜びは、治療を行ったわたしたち医師にも深く伝わってきます。

く伝わってきます。また、卵や精子を直接見ることができ、きれいな質のよい卵を採取できたとき

の喜びや、受精し分割した胚が透明度の高い等分割した胚のとき、本当に美しい

の喜びや、受精し分割した胚が透明度の高い等分割した胚のとき、本当に美しい



[成熟卵]
第一極体を放出した卵子で、卵を取り巻く顆粒膜細胞が放射状に並んでいる卵子です

で活躍されていることでしょうか。
未来は、生殖医学を学ぶあなた方のものなのです。

「ヒト・いのち・誕生」に最も近い、未来の医学

医学生、研修医のみならず、ぜひ生殖内分泌学のドアをノックしてください。

ヒトの根源機能を研究する「生殖・内分泌学の発展」は、ヒトの機能全体を解明することに繋がり、その応用である「生殖医療技術」は、これからの医学の、まさに基本となる医療技術なのです。きっと、20年後の皆さんは輝かしい医学や医療の世界で活躍されていることでしょう。

ものを見ていて喜びがあります。

[胚盤胞期胚]
受精した卵子は、約5日後に内腔に液を貯めた胚盤胞期胚になります。



[胚盤胞期胚]
受精した卵子は、約5日後に内腔に液を貯めた胚盤胞期胚になります。

開催報告

第61回 日本産科婦人科学会学術講演会 「そだて若き指導医たち」

産科婦人科学会最大のイベント「学術講演会」。今年、久留米大学の嘉村敏治教授を学術集会長として、4月3日(金)～5日(日)の3日間、京都の国立京都国際会館で開催されました。今回は「そだて若き指導医たち」をキャッチフレーズに、若手重視のプログラムが数多く企画され、中には若手医師達が自ら企画したシンポジウムもありました。



International Seminar for Junior Fellows

International Seminar for Junior Fellows 月前からメーリンググループから、学会の数々

横浜と京都の会場固定化最後の年、会期も4日から3日に短縮、試験的な開催ではありましたが、予想以上の4、555人に参加していただきました。

今回はサブタイトルを「そだて若き指導医たち」と題し、これからの産婦人科医療を担う若手医師へ



学術講演会

学術講演会 学術講演会 学術講演会

この企画は、全国の研修指定施設に勤務する若手医師(産婦人科専門医取得後の先生方)で、学会の数々

一般演題はポスターとしてイベントホールで発表し



学術講演会

学術講演会 学術講演会 学術講演会

「そだて若き指導医たち」と題し、これからの産婦人科医療を担う若手医師へ

「臨床能力の正当な評価」 専門医制度について率直な意見が多く出ました。

「医師と患者の関係改善」 訴訟などの不安によって、医師がやる気を損なう

「やる気にあふれる医療現場を」 今回たくさんの方の若手の意見が発信されたことは、大きな前進でした。

この活動は、女性の健康支援のため、3月1日から8日間を「女性の健康週間」とし、日本産科婦人科学会と日本産婦人科医会の共催で2005年から行われています。

が開催され、アメリカ、カナダ、韓国、台湾の若手医師と日本の若手医師が各国の医療事情などについて討

「そだて若き指導医たち」をキャッチフレーズに、若手重視のプログラムが数多く企画され、中には若手医師達が自ら企画したシンポジウムもありました。

「臨床能力の正当な評価」 専門医制度について率直な意見が多く出ました。

「医師と患者の関係改善」 訴訟などの不安によって、医師がやる気を損なう

「やる気にあふれる医療現場を」 今回たくさんの方の若手の意見が発信されたことは、大きな前進でした。

この活動は、女性の健康支援のため、3月1日から8日間を「女性の健康週間」とし、日本産科婦人科学会と日本産婦人科医会の共催で2005年から行われています。

ポジティブアクション

若手医師がやりがいをもって産婦人科医を続けるには何が必要か? 学生や初期研修医が目指したくなるような環境とは...

「臨床能力の正当な評価」 専門医制度について率直な意見が多く出ました。

「やる気にあふれる医療現場を」 今回たくさんの方の若手の意見が発信されたことは、大きな前進でした。

この活動は、女性の健康支援のため、3月1日から8日間を「女性の健康週間」とし、日本産科婦人科学会と日本産婦人科医会の共催で2005年から行われています。



大砲ラーメン 京都国際会館支店

「そだて若き指導医たち」をキャッチフレーズに、若手重視のプログラムが数多く企画され、中には若手医師達が自ら企画したシンポジウムもありました。

「臨床能力の正当な評価」 専門医制度について率直な意見が多く出ました。

「医師と患者の関係改善」 訴訟などの不安によって、医師がやる気を損なう

「やる気にあふれる医療現場を」 今回たくさんの方の若手の意見が発信されたことは、大きな前進でした。

この活動は、女性の健康支援のため、3月1日から8日間を「女性の健康週間」とし、日本産科婦人科学会と日本産婦人科医会の共催で2005年から行われています。